

阪神大虐殺

1995年の阪神淡路大震災を「阪神大虐殺」とまで言う人がいる。（たとえば石堂淑朗さん）なるほどそのとおりで、自衛隊を早期に投入していたら助かっていたらと思う命がいくらでもある。消防自動車から水がでないことから、ヘリコプターから大量の水を撒布していれば、玉石ともに砕くかもしれないが、少なくとも何人か何十人か、あるいは何百人かの生命が救われた可能性がある。その決断が遅すぎたために、生きながら焼死したというあたら尊い犠牲者を多数出したのではなかったか。・・・だから「虐殺」

（あの地震は、初対面の人とさえ数時間でも話ができるほど強烈な印象をあたえてくれた。我が家には今でも当時の傷跡が残っている。）

医学界の動きをまとめたようなものがインターネットに流れている。それで読んだのだが。

社会党に阿部某という女性議員がいる。小児科の医師らしいのだが、ここでは無関係なので省略する。この議員が自衛隊をけなしたい。（単なる「いじめ」。社会党は、一時を除けば、自衛隊を否定し続けてきた。）そして最近何かの時に以下のように言ったという。

「あの大地震のときに国民を守るべき自衛隊は地震発生後3日も4日もたってからしか出動しなかった、と非難した。」・・・アホかこいつは。・・・吹き出してしまった。

当時の自衛隊の最高司令官は、時の総理大臣である。いくら10年以上前だといっても、誰だと思ってこんな馬鹿な事をいいたのだらう？ そう、社会党の、君と志を同じくする（あるいは同じ穴の貉ともいう）村山某ではなかったか。おまけに「何せ初めてのことじゃからのう・・・」 天に唾するというのはこのことである。・・・自衛隊は駐屯地の伊丹などに対しては救助活動をしていた。しかし、神戸、芦屋、西宮、淡路島などの大きな被災地に向かっては、命令がないと出動できない。その命令をださねばならなかった「時の権力者」がその強大な権力を行使しなかったから、あれほどの惨事になったのではなかったか。

この命令の遅れが「虐殺」につながったのではないか、といっている

のである。それを何とち狂ったか、自衛隊のせいにするとは・・・

では聞くが、もし外国が日本を攻めてきたときにも「何せ初めてのことじゃから・・・」というのだろうか。自衛隊の出動命令をださないのだろうか。憲法には武力行使をしてはいけない、と書いてあるから抵抗しないのだろうか。日本が占領されてから慌てても意味ないと思うのだが。仮に小生が北〇〇のトップに君臨しているなら、国家が滅亡する前に平和ボケしている日本を蹂躪して（簡単なことや。何百人も拉致・誘拐していても全然気がつけへん国家や。おまけに拉致はデッチ上げ、と救いの手を伸べてくれる政党まである。）贅沢の限りを尽くしてから破滅の道を選ぶだろう。

日航ジャンボの墜落のときもそうである。このとき、小学生の女の子を含めて4名が救出されたのだが、もっと早くに墜落地点を特定し救助に向かっていたら、もっとたくさんの方が助かっていたかもしれない。もう夜だから、救出は明日明るくなってからにしよう。（つまり状況を確かめることなく全員絶望と、誰か責任者が、判断していたからで、単なる思い込み過ぎないのだが。）・・・それよりも、この時無事に助け出された女の子は、今はもうさすがに（興味本位だけの）新聞も雑誌も名前を出さず、話題として触れようともしなくなっているのだから少しはマス・メディアもましになったかと思っているのだが。それにしても、御巢鷹山といえど、日本中で名前を知っていた人はほとんどいなかったであろうが、残骸が燃えていたならともかく、夜ともなれば漆黒の闇であろう。途中で妹の声も聞こえなくなった孤独の10時間を耐え、臭いにも耐え、暗闇にも耐え、山のことだから寒さにも耐え、わが身を省みてよくまあ発狂しなかったものだと感嘆するしかない。今さらながら彼女の精神力・生命力の強さと救助を待っているときの不安感・焦慮を考えれば、なぜ夜を徹して捜索しなかったのか。これを思うとき、小生、切なくなるのである。この女の子は看護婦として、あの大地震にも尼崎かどこかで被災し、のちにボランティアとして活躍したという。なんという数奇な運命の子だろう。

この時の首相は誰か覚えていないのだが、平和ボケ日本を象徴している話ではある。小生の上司など怒り狂っていたものだ。もしあれが、敵が攻めてきた、という話であれば自衛隊などいない。夜だから・・・などという戯言（タコト）が通るわけがない。現に米軍はその日のうちに墜落地点を特定していたというではないか。

それはともかく地震の話。あの大地震はいくつもの悲劇を生んだ。

ある中華料理屋のご主人、奥さんもご両親も地震直後に亡くされ、わずかな隙間に息子さんとともに救助を待っていた。しかし残念ながら息子さんは救助が間に合わなかった。このとき、もっと早く救助に来てくれていたら息子も助かったかもしれないのに、としきりに悔しがっていた。・・・この人はもう 50 代半ばを過ぎている。人生をやりなおすには遅すぎる。また、家族を失い、生きる目的も半ば以上失われた。・・・マス・メディアはこの人のことを追っかけたことがあるか？ この人が生きていく上でなにか方策を考えたことがあっただろうか。

- ・後日、社会党の党大会の日程が発表された。1996 年 1 月 17 日。この日付をみたとき、啞然とし、この党が早晩消滅するだろうと思った。これほどひどいとは思わなかった。

大体、社会党は自衛隊を否定し、国旗国歌も否定してきた。国旗は日の丸、国歌は君が代と言い、ずっと認めてこなかった。首相を出すというのは政権を執ることである。すると、国旗と言い、国歌と呼ぶ。自衛隊も解散させず、これほど前後で態度が変わるのも珍しい例である。そこには節に殉ずる心も羞恥心もない。社会党の支持者まで混乱する。

上記の問題とは異なるが、北朝鮮に拉致されている有本恵子さんの手紙が紆余曲折ののちにおかあさんのところに届いた。北朝鮮の友好党は社会党である。委員長の土井たか子のところに持参して助けを請いに行った。すると、土井は北朝鮮に抗議することもなく、そのまま手紙を北朝鮮に届けてしまった。そして、有本さんのおかあさんは、このために娘が粛清されたかもしれない、と言った。さらには、土井は日本の政治

家ではなく、北朝鮮の利益代表であるとまで言った。そして土井は次の選挙に落選するのであるが。・・・拉致被害者が何人か帰国したあとでも、拉致はデッチ上げと、機関紙に掲載しつつけたのもこの党である。田嶋陽子さんならずとも失望するだろう。「わずか10人のために日朝国交正常化交渉を放棄するのか」と、とても日本の政治家とは思えない程度のものでてくる。(こいつは目立ちたがりであちこちに口をはさむ。厚生大臣の舌禍のときもえらいはりきってたで。)・・・そんなもん、たったひとりであっても日本人の生命を守ろうとしない政治家なんていない。(プライベート・ライアンを見よ。) その後も失敗つづきで、9.11のときには「ざまあみろ」とまで言った。日本人の被害者が28人かいたのにな。結局、まともな人は他の政党に異動するか引退してしまった。そのどこも引き取り手がない生き残りのひとりが、冒頭の阿部某である。党の名前を変えても中身は一緒。

政策を立案する能力もないから、再び万年野党にもどってしまって自衛隊も否定し、現行憲法擁護しか言えないし、何か失言があれば言いがかりをつけようとばかりしている。もう少し大人になったら？

2007.02.20.

もう発表しようと思っていたら、4月上旬、東京都知事に三選された石原慎太郎氏が、まだ選挙の興奮の余韻が残っていたのだろうか、突然、阪神大震災に触れ、使者5000人のうち2000人は自衛隊の早期投入で助かった可能性がある、と言い出した。これに対し兵庫県知事が猛然と反駁し、「ほとんどの人は地震初期の家屋の崩壊による圧死だ」と言った。2000人がどこからでた数字か知らないが、ほとんどが直後の圧死だ(つまり即死)というのも嘘である。石原氏は、首長すなわち県知事が早期に自衛隊を要請していたら、死なずにすんだ人も大勢いるのではないかと、言っていて、自分ならもっと早期に介入させている、と言っている。現実に、自衛隊の救援要請は一係長がしたもので、知事は呆然としていただけである。村山に至っては寝ぼけ眼で、ことの重大さも認識せず、「何せ初めて・・・」即座に被害調査委員会を立ち上げ、その日のう

ちに視察するべきであった。ほとんどすんでから大名行列よろしく視察しても、被害者はしらけていたのみである。(天皇皇后両陛下のお見舞いとはモノが違う。)

圧死が嘘という理由は、重い建物の下敷きになり、血流が途絶えて挫滅症候群で亡くなった人も多いと聞いている。焼死した人もあるはずであるが、詳細については、みな思い出したくないから、よくわからない。現兵庫県知事は当時どこにいたか知らないが、伝聞であろう。これは石原氏も同じことである。

いずれにしても自衛隊の投入が遅れたことが、大災害をさらに悲惨なものにしたのは間違いない。そのことは阿部某も認めているではないか。

2007.04.12.